

ここが聞きたい!!

7名が登壇

古文書等の統一保存を！

布村和男議員

問 古い公文書は、地域の歴史を物語る貴重な文化遺産である。各総合支所等において、旧町政の記録である古文書や地域資料が数多く残っていると思う。年月の経過や職員の異動等により、その存在すら忘れられる可能性がある。後世の住民が我が故郷を振り返り、その歴史を知ることができる貴重な資料を一か所に集約できないかを問う。



答 (教育長) 平成の大合併に伴い、山口県文書館が昭和30年以前の公文書等について調査した。本町における調査場所は、旧4

町役場他4か所で内容は公文書及び町史編纂時に収集された古文書等の資料を調査し、「山口県内市町役場保存状況調査報告書」に記載されている。歴史的資料については、旧町単位で分散保管されており、利活用が十分でないため、資料を集約化し統一保存するための管理、活用方法を考える必要がある。これら資料の統一的な管理保存を目指すため、資料管理ができる人材の確保や活用可能な建物の確保が必要である。

答 (町長) 庁舎の書庫は一度も整理していないが、大事な資料が多く残っているので整理をしたい。特に旧東和庁舎は空家になっているので整理が急務である。

今後一ヶ所に集めることも含め、総務部と教育委員会で協議しながら整理保存に努めたい。

体験型修学旅行の成果は？

平野和生議員

問 昨年9月と11月に受け入れた体験型修学旅行における反省点や、来年度以降の誘致や受け入れ体制はどうなっているのか問う。



答 (町長) 9月の女子高生の修学旅行については、引き受けてくださったインストラクターの方のおかげで、学校側は、大変すばらしかったので続けていきたいとの事であった。11月の神奈川県の中学生については、55軒の民家の協力により民泊体験を実施したアンケートによると、98%の方に支持して頂いた。又、「今後も民

泊を受け入れてもよいと思うか」との問いにも、70%の方が受け入れてもよいと答え、「受け入れたくない」という方は1人もいなかった。「今後もこの事業を続けるべき」と答えた方は65%いた。

来年度以降の誘致については、平成22年度2校、23年度8校、24年度2校となっていて、生徒数は1校あたり100人～300人である。受け入れ側の体制は、昨年は70軒であったが、来年度以降の目標としては150軒以上の受け入れ軒数が必要になってくるが、12月の広報を見られた方で民泊を申し込まれた方がおられたので、今後も御理解御協力をお願いしたい。



かき打ち体験